

家康くん（浜松市福市長／ゆるきゃらグランプリ2015全国制覇）と

浜松医療センターと 歴史探訪

浜松医療センター 院長 小林 隆夫

太刀洗の池と西来院

だんだんと寒さも和らいできた2012年3月朝の出来事であった。8時頃職員駐車場に車を止めて浜松医療センター第2駐車場出口に差し掛かった時、思わぬ光景を目にしたのである。その辺りは以前2匹のトカゲが抱き合っていた雑草も生い茂る場所でもあるが、その朝はうら若き女性が「太刀洗の池」の築山御前の碑に向かって手を合わせているのではないか。思わず近寄って「築山御前にゆかりのお方ですか」と尋ねると、「いえ、今日静岡市で舞台があり、私が築山御前の役を演じるので、その前に一度お参りに来たかったです」との答えが返ってきた。後ろ姿はみすばらしかったが、よく見ると絶世の美女で、すかさず「しっかりお参りして、良い舞台を務めてくださいね」と話し寄ると、「ありがとうございます。ところで、西来院へはどうやって行ったら良いのかわかりませんので、教えていただけませんか」と言う。「西来院?」。いきなり尋ねられて返答に困ってしまった。「それでは、一緒に来てください。事務室で詳しい場所を確認しましょう」

と言って病院に案内し、運転手さんに場所を教えていただいた。5分程度の出来事だったが、その舞台女優が誰で、その後どうなったかは知らない。しかし、きっと良い舞台を務めたものと確信している。私が浜松医療センターへ来てから丸4年が経過（現在は8年）したが、いままで何十万人もの人々が「太刀洗の池」の築山御前の碑の前を通ったことだろう。しかし、碑に手を合わせている人を見たのはこの時が初めてであった。

築山御前は徳川家康の正室で、今川義元の姪にあたり、父親は今川家の重臣である。彼女は駿河時代には瀬名姫と呼ばれていたが、1557年に人質暮らしをしていた16歳の松平元康（後の徳川家康）と結婚した。2年後に長男竹千代（後の信康）が産まれたが、1560年の桶狭間の戦いで今川義元が織田信長に討たれ後、家康は妻子を連れて岡崎城へ移った。岡崎城に入った瀬名姫は「築山曲輪」に住むようになったことから「築山御前」と呼ばれるようになった。しかし、家康の実母・於大の方との関係がうまくいかず、岡崎城は嫁姑戦争の舞台になった上に、自分

の息子である幼い竹千代は信長の娘・徳姫と結婚させられてしまった。築山御前にとって徳姫は怨敵の娘であり、ますます面白くない。家康は天下統一を計るため、岡崎城を信康に譲り、自らは浜松城に移った。家康は1572年に三方ヶ原の戦いで武田信玄に大敗するが、その後1575年、長篠・設楽原の戦いで織田・徳川連合軍は武田勝頼に大勝利を収め、武田氏を滅亡への道へと追いつめるのである（後述）。

1579年、徳姫は築山御前が徳姫に関する讒言を信康にしたこと、築山御前と唐人医師との密通、武田勝頼との内通、信康の残忍な行為など、12ヶ条からなる書状を信長に届けさせた。同年7月16日、これに激怒した信長が、家康に築山御前と信康の処刑を命じた。そして同年8月25日、浜松城に移るといふ名目で築山御前は岡崎城を立った。築山御前はうきうきしながら化粧を施し、輿に乗ったという。一行は浜名湖を過ぎ佐鳴湖を渡り、対岸の小藪（現在の浜松市中区富塚町：浜松医療センターの所在地）へ上陸した。そこで家康に死の宣告を受け、浜松城を目前にして38歳の生涯を閉じたの



写真1 浜松医療センターと太刀洗の池



写真2 西来院にある築山御前月窟廟



写真3 信康が切腹した遠州二俣城址

である。その時、「怨霊となって、子孫にたたる」と言って死んだとされている。殺害時に使用した「相州貞宗」の名刀（2尺3寸＝70センチ）の血のりを洗ったという伝説のある「太刀洗の池」が浜松医療センター第2駐車場の出入り口付近にあり、碑がたっている（写真1）。遺体は西来院（浜松市中区広沢1丁目）に葬られたが、現在の廟堂と墓石は1978年の400年忌に復元再建されたものである（写真2）。なお、浜松医療センター周辺は今なお「御前谷」と呼ばれている。息子の信康は、同じ年の9月15日に遠州二俣城で切腹、享年21歳であった（写真3）。最も優秀といわれていた家康の長男は、こうして敢えない最期を遂げてしまった。ちなみに介錯したのは森町（森の石松の出生地）にある天方城の天方通興氏で、現在の天方産業（浜松市中区森町：総合エンジニアリングソリューション）CEOの祖先である。

三方ヶ原の戦い

さて、聖隷三方原病院の近くで起きた戦いこそが、家康一生の不覚といわれる三方ヶ原の戦いである。1572年12月22日、武田信玄は織田信長を攻めるため家康のいる浜松城を素通りして三方ヶ原台地を通過しようとしていた。これを知った家康は、一部家臣の反対

を押し切って、三方ヶ原から祝田の坂を下る武田軍を背後から襲う攻撃策に変更し、浜松城から追撃に出た。しかし、武田軍に対し兵力・戦術面ともに劣る徳川軍に勝ち目はなく、わずか2時間の戦闘で甚大な被害を受けて敗走する。徳川軍の一方的な敗北の中、家康も討ち死に寸前まで追いつめられ、わずかな供回りのみで（尿尿を漏らしながら）浜松城へ逃げ帰った。浜松城へ到着した家康が描かせたのが顰像（しかみ像）である。その後、熱くなった自分を抑えるためにこの絵を見て自重していたという逸話が残っている。敗走中の家康は途中で腹が減り、茶屋の老婆より餅を買い求めて食べていた。ところが、その時敵が迫ってきたので代金を払わず逃げたが、老婆が追いかけてきて家康から代金を徴収した。この逸話より、茶屋があったとされる地域には小豆餅（浜松市中区小豆餅）の町名が残り、家康が代金を払ったとされる地域は「銭取」（同区和合町）と呼ばれている。ただし、命からがら逃走していた家康がいくら空腹でも茶屋に寄ったとは考えにくく、騎乗していた家康が徒歩の老婆に追いつかれたというのもおかしいため、信憑性は薄い。

写真4は2013年にゆるキャラグランプリで逆転負けを喫した浜松市のマスコットキャラクター

「出世大名、家康くん」が、そのシンボルであるうなぎのちょんまげを切り取って出家大名になった1カ月間、浜松市役所に展示されていた「（家康くんの）しかみ像」と「うなぎのちょんまげ」である。「家康くん」は、その後満を持して挑んだ2015年のゆるキャラグランプリで、今度は見事に逆転勝利を収め全国制覇を成し遂げたことは、浜松市民にとってこの上ない喜びである（タイトル写真）。

長篠・設楽原の戦い

武田氏の後継者となった勝頼は、遠江・三河を再び掌握すべく反撃を開始。1575年4月には大軍を率いて三河へ侵攻し、5月には長篠城を包囲した（長篠の戦い）。こうして後世に残る長篠・設楽原における武田軍と織田・徳川連合軍の衝突が始まった。長篠の戦いに続く設楽原の戦いで有名なのは、「無敵武田騎馬軍団」対「織田・徳川連合軍の3,000挺鉄砲三段撃ち」である。すなわち、信長は馬防柵を作り武田軍の騎馬隊を食い止めた上で、3,000挺の鉄砲部隊を3列に配置させ、1,000挺ずつの鉄砲を順々に発射させ、相手に付け入る隙を与えずに打ち倒すという戦法を考案したとされる（写真5）。毎年ゴールデンウィークに長篠城址で「長篠合戦のぼりまつり（写真6）」が開催されて



写真4 うなぎのちょんまげ断髪式
2013.12.18「出世大名」から「出家大名」へ



写真5 設楽原にある馬防柵



写真6 長篠合戦のぼりまつり

いるが、現代では火縄銃の発射を再現した経験から「三段撃ちは不可能」との見解を示している。それでは何故、武田騎馬軍団は壊滅させられたのか。これには諸説あるが、騎馬隊が思うように展開できない設楽原に巧妙に誘い出された、空堀と銃眼付き土塁に守られた鉄砲隊が大将たちを狙って射撃を浴びせた、大量の鉄砲の一斉掃射による轟音によって武田軍の馬が冷静さを失い騎馬隊が大混乱に陥った、武田軍（特に勝頼）の焦り、織田・徳川連合軍の防備や戦力を把握できないまま突入を繰り返した、などが理由として考えられている。この結果、武田軍は譜代家老や重臣のほとんどが戦死し、勝頼はわずかの旗本に守られながら甲府に帰国したが、もはや体勢を元を立て直すこともできず離反も相次ぎ、1582年3月11日に天目山の戦いで織田軍に敗れ、名門・甲斐武田氏嫡流は滅亡した。この甲州征伐を終えた後に、私の故郷である諏訪で信長が明智光秀を打擲したことが原因の一つになったとされる「本能寺の変」は、武田氏滅亡のわずか3カ月後の出来事であった。

天与の実験モデル (Experiment of Nature)

この長篠・設楽原の戦いこそが、後の「天与の実験モデル」の遠因

であると言っても過言ではない。非常にまれな疾患は「天与の実験モデル (Experiment of Nature)」と表現される。これは浜松医科大学産婦人科の2代目教授（浜松医科大学5代目学長）であった寺尾俊彦先生が提唱された言葉で、われわれに脈々と引き継がれている研究の根底を成す概念である。ヒトが有する生理的現象やある物質が持つ生理的機能を解明するためには、ターゲットとなる物質を先天的に欠損するヒトのさまざまな現象をよく観察することに尽きる。例えば、着床や妊娠維持に関する天与の実験モデルは、先天性血液凝固因子欠損症患者の妊娠の成立および妊娠の維持の関係といえよう。浜松医科大学産婦人科では、教室設立当初からこの研究に取り組み、その典型的なモデルとしては、先天性無フィブリノゲン血症と先天性 XIII 因子欠損症患者の妊娠・分娩があげられる。両者では、いずれも妊娠初期に出血が始まり、補充療法をしなければ100%流産するが、フィブリノゲン、XIII 因子をそれぞれ補充することによって妊娠は維持され、生児を得ることができる。これは、ノックアウトマウスを用いた実験でも証明済みである。先天性無フィブリノゲン血症患者では、われわれは世界で最も多い5症例8分娩に成功している。

みなさんは、日本で最も人口が少ない村をご存じであろうか。現在でこそ村同士の合併のためその地位を東京都の青ヶ島村に譲ったが、合併前は愛知県北設楽郡富山村（現在は豊根村へ編入）であった（1家族の転入転居で時々順位が入れ替わっていたという）。人口は200人足らずで、佐久間ダムのさらに奥地の山々と湖に挟まれた急峻な場所に存在している。遠い昔の南北朝時代の頃、源氏の落ち武者が隠れ里として暮らし始めたのが歴史の第一歩だったとされるが、実はこの寒村に長篠・設楽原の戦いで敗れ、敗走してきた武田の落ち武者が隠れ住んだのである。爾来400年の時を経て、1983年、世界で初めて富山村出身の先天性無フィブリノゲン血症患者が浜松医科大学産婦人科で分娩に成功した。追っ手を逃れて隠れ里に安住の地を求め、血族結婚を繰り返してきたようだ。江戸時代からの戸籍で血族結婚が見て取れるし、新生児期に死亡した人が何人も見られるため、おそらく先天性無フィブリノゲン血症の家系であると推測される。われわれはその後プラスミノゲンアクチベーター・インヒビター (PAI-1) 欠損症などさまざまな先天性欠損症患者の妊娠・分娩、すなわち、「天与の実験モデル」を通して病態を解明してきたが、紙面の都合上詳細は割

愛する。日本各地には平家の落人の隠れ里も多いので、おそらく同様なことがいえるのではないだろうか。

家康の散歩道

浜松城は出世城といわれる。その理由は、天保の改革を行った水野忠邦はじめ、浜松城主の多くは幕府の要職に就いて出世したことからそう呼ばれており、浜松には「出世城」というお酒（浜松酒造）もある。浜松は家康ゆかりの地であり、市内には「家康の散歩道」（写真7）があるので、浜松にいらした時には、日本一有名なウナギ、スッポン、餃子、そして冬場は漁獲高日本一の天然トラフグを食べ、ぜひ歴史を探訪していただきたい。また、来年のNHK大河

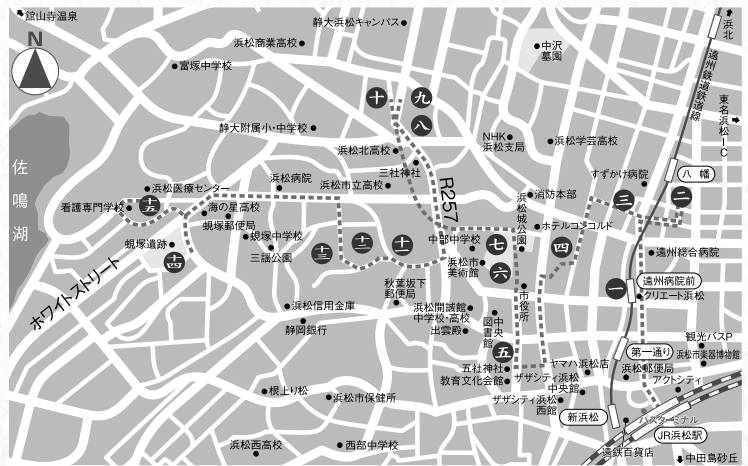


写真7 家康の散歩道

- ①二代目将軍徳川秀忠公誕生の井戸 ②浜松八幡宮 ③椿姫観音 ④東照宮 ⑤五社神社・諏訪神社
 ⑥家康公鎧掛松 ⑦浜松城 ⑧本多肥後守忠真の碑 ⑨犀ヶ崖古戦場 ⑩夏目二郎左衛門吉信の碑
 ⑪普濟寺 ⑫西来院 ⑬宗源院 ⑭浜松市博物館 ⑮太刀洗の池

ドラマは「徳川四天王」の一人である井伊直政（浜松市北区引佐町井伊谷にて出生）の養母となった

「女城主井伊直虎」が始まるので、期待してください。

ESSAY